

## 原爆被爆者における放射線被ばくと心房細動<sup>1</sup>発症の関係

今回の研究では、放影研の研究者は広島と長崎の原爆被爆者からなる成人健康調査 (AHS)<sup>2</sup> 参加者を対象とし、専門的な統計手法を用いて放射線被ばくと心房細動 (AF) 発症との関連性について解析しました。

その結果、40 年以上の追跡調査で 276 人が AF と診断され、発症率は 1,000 人年あたり 1.56 でした (これは日本人の平均的な AF の発症率とおおよそ同じレベルです)。性別と都市を調整した解析で、被ばく放射線量に関係した AF の発症リスク (危険性) の増加は認められませんでした。さらに、従来の AF のリスク因子 (BMI<sup>3</sup>、心臓病罹患など) を調整しても同様の結果となりました。

結論として、被ばく放射線量と AF の発症リスクには明らかな正の関連を認めませんでした。

### 【注釈】

<sup>1</sup> 心房細動 (AF) :

心房といわれる心臓の上部の部屋が不規則に震えて正常に機能しなくなる状態で、不整脈 (脈拍が遅い、速い、または不規則な状態) のひとつです。

<sup>2</sup> 成人健康調査 (AHS) :

2 年ごとの健康診断を中心とした臨床調査プログラムです。原爆放射線による病気の発症などの長年にわたる健康影響を調べることを目的として、1958 年から約 20,000 人の原爆被爆者の調査が行われています。

<sup>3</sup> BMI :

Body Mass Index の略称で、体重と身長から算出 (体重(kg)÷身長(m)<sup>2</sup>) される肥満度を表す体格指数です。

doi. 10.1253/circrep.CR-21-0059

doi (digital object identifiers) とは、ほとんどのデジタル情報に与えられた、コンテンツ (論文や作品等) 独自の不変番号で、インターネットの検索を通じてオンライン資料を特定するために用いられます。

本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先しています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は専門の学術誌に掲載された論文をご覧ください。